

特定非営利活動法人 埼玉環境カウンセラー協会

## 協会だより 第47号



やまねのセカちゃん

〒330-0055

さいたま市浦和区東高砂町 11-1 コムレ9F

さいたま市市民活動サポートセンター

発行日：2020年9月24日

発行人：会長 大熊 幸雄

電話：050-3610-1948

e-mail：sai-eca@soleil.ocn.ne.jp

ホームページ：http://www.saieca.com/

### 本号のラインアップ

会長挨拶	.....	1
通常総会について	.....	2
環境破壊が感染症を生んだ	.....	3
会員の活動紹介	.....	5
情報交差点、編集後記	.....	8

### 会長あいさつ

大熊 幸雄

会員の皆様には、コロナ禍の中、いかがお過ごしでしょうか。

このような状況下、残念ながら理事会、監査会、通常総会は例年のとおりに開催できませんでした。理事、監事の皆様を始め会員の皆様には書面表決等異例の手続きに御協力をいただきまして、ここから感謝申し上げます。

事業計画にある講習会や研修旅行については、3密を避け感染リスクを回避するため、現状では実施の見通しが立ちません。

ウイルスによる疫病については、江戸時代の麻疹、コレラや明治のコレラ、天然痘など感染拡大により多くの犠牲者が出ました。当時は科学的情報が少ない中、長与専斎や後藤新平が対応に奮闘しましたが、現在、これらの優れた先人の経験が生かされていないように感じます。

第2波がどうなるか分かりませんが、ウイルス学者、感染症学会、医療関係者等専門家の意見を聴き正しく怖れて、しばらくの間、収束を待ちたいと思います。

会員の皆様、新型コロナウイルスやインフルエンザに感染しないように最大限の注意を払いましょう。

## 埼玉環境カウンセラー協会 通常通常総会について

令和2年度埼玉環境カウンセラー協会総会については、新型コロナウイルス感染拡大に伴い例年のような埼玉会館での開催を断念し、書面表決により実施しました。

その結果を、次のとおり報告します。

### 記

実施方法 メールによる書面表決

実施期間 令和2年5月8日から5月18日まで

令和2年度埼玉環境カウンセラー協会総会（書面表決）の結果

1 協会の会員数	35名
書面表決書の提出数	29名
委任状の提出数	0名

### 2 書面表決の結果

第1号議案	令和元年度事業報告書	承認	29	承認せず	0
第2号議案	令和元年度活動計算書	承認	29	承認せず	0
	令和元年度監査報告書	承認	29	承認せず	0
第3号議案	令和2年度事業計画書案	賛成	29	反対	0
第4号議案	令和2年度活動予算書案	賛成	29	反対	0

会員数35名に対し、書面表決で承認及び賛成29名であり、過半数をもって全ての議案は可決されました。

### 3 いただいた御意見。

・第3号議案の令和2年度事業計画案については、今後の新型コロナウイルス感染症の拡大、収束の状況によって、柔軟に対応していけばいいと思います。

（星野弘志様）

・年間収益金が約17万円に対して繰越金が年150万以上あるのはちょっと多すぎるのではないのでしょうか。何か特別に会として蓄えが必要でなければ、せいぜい繰越金は年間収益金規模の3~4倍程度で十分でしょう。ご理解いただければ、会費の減額とか記念行事への支出とか執行部にてご検討ください。（糸永眞吾様）

・今年は集合教育等ができない可能性もあり、社内も外部も会議はWEB会議となりそうです。SECAもこういう機会にWEBで講習会を開催したりすると、普段参加していただけない遠方の方にも参加していただけるかもしれないと考えたりします。

（小坂久仁子様）



## 環境破壊が感染症を生んだ 石 弘之 (環境史家・ジャーナリスト)

環境ジャーナリストとして著名な石弘之さんが「感染症の世界史」という本を発行されました。そんな石さんのお考えを紹介する秋田宏さんのブログ（NHKラジオ深夜便 明日への言葉（2020年7月9日放送））を発見しました。秋田さんはご本人のブログの拡散を希望されていることから、ここに転載させていただきます。

石さんは東京都の生まれ、80歳、朝日新聞科学部記者を務め、退職後は国連環境計画上級顧問や東京大学大学院教授なども務め、50年以上にわたって環境問題に取り組んできました。新型コロナウイルスやエイズ、エボラ出血熱などの感染症も環境問題の一つと考える石さんに伺いました。

新型コロナウイルスの世界的な感染拡大、いつかこんな事態が来るのだろうかあと漠然と予想していましたが、まさかこんな状態になるとは思いませんでした。30年から40年ごとにやってきます。1980年代からエイズが世界的にはやったが、そろそろ来るのではないかと思っていました。

経済活動が停滞して、環境としてはこの50年でこんな素晴らしい環境は経験しなかったです。逆に言うと人間はいかに環境にプレッシャーを掛けてきたのかなあと思います。中国の大気汚染は25%ぐらい下がったといわれます。自動車の大気汚染、水質汚染、海もきれいになったといわれています。二酸化炭素も5%以上下がります。

新型コロナウイルスに収束は3通り考えられています。

①このままずるずる広がって、新しいワクチン、治療薬ができるまでは減ったり増えたりすることが続くのではないかと。20近くの新ワクチン開発が進んでいるが、決定的な成果は上がっていない。

②ウイルスも子孫を残すために感染しているので、人間が死ななくても困るので、自分自身が弱くなってゆく傾向にある。

スペイン風邪は数千万人亡くなったといわれているが、インフルエンザもだんだんと弱まってきている。インフルエンザは冬場だけ流行するような形になっている。ウイルスは遺伝子が変わってゆき、強くなってゆく一方で弱くなってゆくものもある。

新型コロナウイルスはSARS（重症急性呼吸器症候群：severe acute respiratory syndrome）とは96%ぐらい遺伝子が同じだといわれていて、2004年になったらサーズは毒性がなくなってしまった。発生から170日後に終息宣言ができた。まれなことでした。

③6割、7割が感染してしまえばワクチンを打ったような効果があって、広がらないという効果があって過去にも度々起きてきたので、そうなるのではないかと希望があるが、それまでになるにはかなりの犠牲者が出ることは覚悟しなくてはならない。

環境がどのように変わってきたのか、それが人間にどのような影響を及ぼしてきたのか、それを研究しています。自然災害と、エネルギー消費、資源廃棄、森林伐採など含め人間自身によっても大きく変わってきた。感染症の歴史のなかでどのような環境とのかかわりがあるかということに私が一番興味を持っています。ペストはヨーロッパの人口の1/4から1/3減ってしまったといわれている。人口減少で封建経済の崩壊、街をみんな逃げだしてルネッサンスが起きる。教会でお祈りしたが神様は助けてくれなかったので、宗教改革につながる。そのころ14世紀は地球が急に寒冷化した証拠がある。たくさんの方が死んだので農地、都市が放置されて、森林が戻ってきて地球の冷却が起きてきた。

過去に流行った感染症500ぐらいを、どう言う場所で最初に感染が始まったのかを研究したものがああります。急に森林が破壊された場所、都市が勃興したところ、工業地帯ができたところ、短時間に環境が変わったところで感染症が発生した可能性が極めて高いという報告書を出している。

エボラ出血熱は、西アフリカで 1 万人を超える人が死んだが、あまりにも悲惨な死に方なので調べたことがありました。西アフリカは、熱帯林のたくさんある国だったが、最近急激に森林破壊され、人間が住み込んでいって開墾していったので、発生したらしい。元々は蝙蝠が持っていたウイルスで、ジャングルが破壊されたのでやむなく街に出てきた。人間、家畜なりにうつすという筋書きになっている。中国の雲南省の蝙蝠が持っていたウイルスが何らかの形で、武漢省にでてきたと思われる。仲介者がセンザンコウという鱗だらけの哺乳動物と、ジャコウネコが候補に挙がっている。彼らが持っているウイルスと蝙蝠が持っているウイルスと似ているんです。闇ルートで市場に持ち込まれて、市場の周辺の人がかかったものと思われる。

子どものころから、生き物が好きで植物が大好きでした。近所の植物が好きなおばちゃんに連れられて、牧野富太郎という有名な植物学者のところに行き来していました。そこで植物に熱を上げました。野山を歩きながら花の名前、来歴などを学びました。大学は生物学を学びました。安保闘争の時代で混乱して学校にいけなくて、緊急避難的に新聞記者になりました。(昭和 40 年)静岡に赴任しました。静岡では廃液を海に流して、海がひどいし、悪臭がしてひどいのでキャンペーンを始めたのが環境問題のきっかけでした。

警察周りもだめで、ルールもよくわからなくて、高校野球の取材もだめでした。暇ネタ環境問題しかなかった。科学部に行き海外にも行くようになりました。ニューヨーク特派員、アフリカ駐在編集員、国連環境計画の顧問もやりました。1996 年に退社しました。(早期退職要請があった。)地球環境のことを書いたり、しゃべったりしていたのでそれで飯が食えるのではないかと思いました。アフリカの悲惨な状況があって、木がすごい勢いで伐採され、人口爆発があり、環境破壊がありました。環境問題をやるにはアフリカをやらなければと思い立ちました。

アフリカから帰ってきたころから身体が衰えてきて、現場を抜けてどう環境問題に取り組むかということで、グループを作って環境問題に取り組みました。135 か国ぐらい行きましたが、講演したり、仕事をした国は 100 か国ぐらいだと思います。さまざまな感染症にもかかりましたが、マラリヤが一番厳しくて、40℃の熱になり、倒れてまた治って、4 回ぐらいかかりましたが、3,4 回目は症状が軽くなります。

コレラにもかかりました。トイレから出られないような感じでした。新型コロナウイルスの件で中国にも行きました。市場にも行きましたが、蛇、亀、珍しいものでは孔雀などいました。ペット屋さんに行ったような感じです。中国は多様な生物が生息しており、ありとあらゆる動物、植物はウイルスを持っているので逃れることはできないので、ウイルスも多様性がある。

これまでもいろんなインフルエンザが出てきているが、ほとんどは中国が原産地です。カモ、アヒルは同族で、アヒルは中国ではどこでも飼っていて、カモからアヒルへ、そして豚へ、人間へと連鎖が出来上がっている。中国の武漢ウイルス研究所からの論文で、コロナウイルスの仲間今回の新型コロナウイルスに似ているものは、50 数種類は見つかっているということです。彼らは次の候補者なのです。

20 世紀は、インフルエンザウイルスがいろいろ姿を変えて、インフルエンザウイルスの時代だったと思います。21 世紀は、コロナウイルスが猛威を振るうのではないかと思います。アフリカからも出てくると思います。アフリカは防疫体制ができていないので、爆発的に増える可能性があります。ウイルスは共存してゆくと思う。人間とウイルスとの軍拡競争のような感じで、ワクチン開発とウイルスの遺伝子変化が競ってゆくのではないかと思います。

ウイルスと環境との関係をさらに研究しないといけない。経験的には、環境をいじくりまわすとおかしいものが出てくるとのことだと思います。地球の生態系からウイルスを排除したとしても、また、なにか起きるかもしれない。

## 会員の活動紹介

令和2年8月29日

### コウノトリに夢中の環境カウンセラーについて

川島秀男 鴻巣市在住 登録番号 市民部門 006211003

荒川太郎右衛門地区自然再生協議会会長の埼玉大学大学院浅枝隆教授の勧めにより、2012年4月、埼玉大学大学院理工学研究科博士後期課程に入学し、関東地方におけるコウノトリ・トキも棲む環境と市民意識および自治体の環境施策の段階性と今後の方向性に関する研究について、2019年10月、埼玉大学において博士論文発表を実施しました。

研究内容は兵庫県豊岡市のコウノトリ、新潟県佐渡市のトキおよび埼玉県鴻巣市のコウノトリについて市民意識の調査研究を行いました。次いで、自治体の環境施策と今後の方向性について調査研究を進めました。アンケート調査および自治体に出向き、ヒアリングを行い、その地域の自然環境の理解を深めることに努めました。

あるとき、栃木県小山市渡良瀬遊水地ラムサール条約推進課に出向く途中、千葉県野田市野生放鳥のコウノトリが渡良瀬遊水地第2調整池に飛来し、人工巣塔の上のコウノトリ「ひかる♂」を見かけました。感動しました。まだ、湿地造成工事中の環境においても、コウノトリは棲みつくものかと思いに思いました。その後、ヨシ焼きに参加したり、ヤナギや外来種セイタカアワダチソウの駆除などのイベントに駆け付けたりしています。今年3月21日のヨシ焼きにも駆け付けています。

コウノトリ「ひかる♂」が「歌♀」を花嫁さんとして迎えられるか期待が非常に高まってきていたので、思わず、千葉県野田市のK病院の帰途、愛妻と共に駆け付け、焼き鳥になるかと心配していたところ、赤い炎と黒煙のヨシ焼きの夕空の中で、飛び回る恋の大絵巻は圧巻でした。このコウノトリの恋のランデブーは、翌日、結婚にゴールインしました。5月30日には、ヒナ「わたる♂」と「ゆう♀」が生まれています。

「ひかる♂」は、平成28年3月28日千葉県野田市生まれ4歳の雄であり、「歌♀」は、平成30年3月13日徳島県鳴門市生まれ2歳の雌であり、昨年9月以来の再会を求めて、一旦は四国徳島県鳴門市まで帰郷していたコウノトリが今年の春、単身、海を越え、山を越え、川を越え渡良瀬遊水地に舞い戻ってきています。

余談ですが、昨年9月5日頃3日間、行田市立下忍小学校の南側の鴻巣市立下忍小学校の北側の田んぼに降り、鴻巣市の農家島崎さんの休耕田にて、3日間採餌しておりました。その後、渡良瀬遊水地第2調整池の方へ飛んで行きました。連日朝夕、コウノトリのオッカケを体験してみて、コウノトリも棲む環境の問題であると考えようになりました。

2年前の9月1日には、「きずな♂」が1泊2日で、鴻巣市小谷小学校西側の三町免田んぼに飛来したことがあります。鴻巣市では、吹上のコスモスアリーナの荒川スーパー堤防にコウノトリの人工飼育施設を建設開始し、今年度完成予定です。皆様のお出かけを期待したいと思います。



写真1.  
渡良瀬遊水地第2調整池栃木市藤岡町帯刀田んぼで  
早朝採餌する「ひかる♂」パパと「歌♀」ママ  
8月26日5:22 川島秀男撮影



写真2.  
渡良瀬遊水地第2調整池田んぼアート水田で  
昼食採餌するヒナ「わたる♂」と「ゆう♀」  
8月20日13:59 川島秀男撮影

当協会会員の小坂さんと渡部さんが表彰されましたので、ここに御披露いたします。

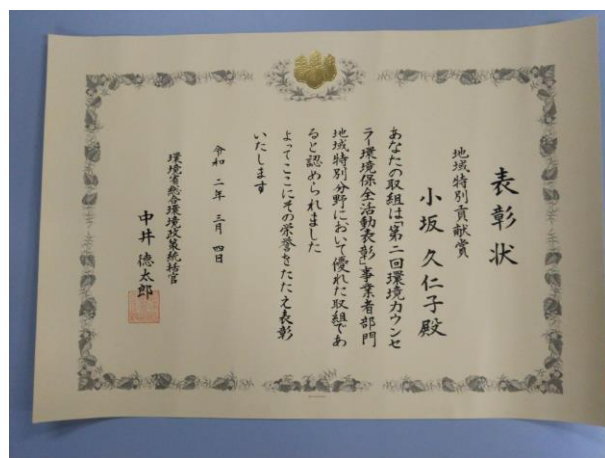
小坂さん、渡部さん、おめでとうございます。

小坂久仁子さん

令和2年3月16日発表

第2回環境カウンセラー環境保全活動表彰【地域特別貢献賞】事業者部門

自治体の環境審議会委員や環境基本計画策定委員などとしての行政参画活動や、地域の小・中学校の環境教育を担当する教員を対象にした環境教育に関する研修会で講演活動などを通じて、幅広い分野で地域の環境保全推進に貢献した。



渡部良一さん

環境カウンセラー全国連合会理事長表彰 環境保全功労者 令和2年6月26日

環境イベントの運営や環境教育の講師を務めるなど環境保全活動の推進に顕著な功績を残した。



## 京都大学 松下和夫名誉教授からの情報提供です。

コロナ禍に加えて酷暑の日々が続いておりますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。例によって最近の拙稿などをお送りいたします。コロナと気候変動そして緑の復興関連で、かなり重複がありますが、ご海容のほどお願い申し上げます。もし徒然のうちに気が向きましたらご笑覧いただければ幸いです。

### ① 「日本もコロナ禍からの『緑の復興』（グリーンリカバリー）を」

[http://scienceportal.jst.go.jp/columns/opinion/20200806\\_01.html](http://scienceportal.jst.go.jp/columns/opinion/20200806_01.html)

(科学技術振興機構 (JST) サイエンスポータル)

<https://news.yahoo.co.jp/articles/d19f5f544bea626c47b4daa1203b197862b67700>

(同じ内容が Yahoo ニュースにて)

### ② 「コロナ禍に学ぶ、新しい社会『New Normal』」

<https://www.nippon.com/ja/in-depth/d00588/> (日本語)

<https://www.nippon.com/en/in-depth/d00588/> (英語)

松下和夫

京都大学名誉教授

(公財) 地球環境戦略研究機関 (IGES) シニアフェロー

URL: <http://48peacepine.wixsite.com/matsushitakazu>

## コロナ禍で大気汚染物質が一時的に減少

NO<sub>x</sub> や PM<sub>2.5</sub> による大気汚染は、自動車交通と産業活動の影響を強く受けるといわれています。

政府から発出された 4 月 7 日から 5 月 25 日までの緊急事態宣言に伴う社会、経済活動の自粛は、大気環境に変化をもたらした可能性が考えられます。

そこで、環境科学国際センターでは、4 月 7 日前後 (3 月 1 日~4 月 26 日) の大気汚染測定データ (県内 83 か所) を基に、平日と休日に分け、汚染状況の変化を明らかにしました。

NO<sub>x</sub> の濃度については、一般大気環境測定局 33 局では、宣言後に平日で 25%、休日で 31% 減少しました。特に秩父の休日は顕著で、45% 減少しました。これは休日に観光地へ向かう交通量の減少による影響と推測されます。

県全体を昨年と同じ期間の変化と比べると、平日に濃度が大きく低下したことが分かりました。

PM<sub>2.5</sub> の濃度については、一般大気環境測定局のうち県南東部地域で、宣言の前後で平日、休日とも 20% 以上減少しましたが、昨年との比較では、大きな変化は見られませんでした。これは、PM<sub>2.5</sub> の生成が、季節や他の物質の影響を受けやすいためと考えられます。

今後、自動車交通量の変化などと比較、解析することで、社会、経済活動が平常に戻った際に本データを大気汚染対策に活用してまいります。

埼玉県環境科学国際センターの記者発表資料 (令和 2 年 5 月 29 日) から抜粋

## 情報交差点

○ 予定されていた理事会、監査会(4/26)、通常総会(5/17)は、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、メールのやり取りなどにより実施されました。

### ○令和2年度会費の納入について

今年度は総会で会費の徴収が出来ませんでしたので、次の協会口座に会費5,000円の振り込みを、お願いします

名義 埼玉環境カウンセラー協会

口座 埼玉りそな銀行 小手指支店 普通 3699561

○ くまがやエコライフフェア、第20回さいたま市環境フォーラム、富士見市ふるさと祭りは中止となりました。

### ○ 特定非営利活動法人の事業報告について

令和2年6月2日さいたま市市民協働推進課に報告しました。

### ○ ECUの活動情報

- ・令和2年度通常総会は、令和2年6月26日(金)エッサン神田ホールで開催され役員改選により、今井秀雄代表理事、藤本晴男代表理事、佐々木進市特別相談役、江原仁専務理事が選出されました。

ホームページ <http://www.minnanoecu.com/>

## 編集後記

中村 章

令和元年度は台風により色々な影響がありました、令和2年に入ってから「新型コロナウイルス感染拡大防止」のため当協会も、理事会、情報交換会の見送りをして地域のイベントまでことごとく開催出来なくなりました。

皆様ご存知の通り東京オリンピックまで1年延期となり、地球上の至る所で考えてもいない様な状況が起きておりますが、未だに収束までには大きい壁があります。ただ今回の「新型コロナウイルス」の怖いところは無症状の方々が殆どで、感染してから直ぐに症状が出ない！私達の事業も年配者が中心で人が集まった所で感染しても解らない！手の打ちようがない所が怖い所です。

その為「多数が集まる密集場所」「換気の悪い密閉空間」「間近で会話や発声する密接場面」を避けるため、各種イベントが開催出来なくなったわけです。

皆様もあきらめることなく新型コロナウイルスが収束して、改めて、当協会の活動が出来ることを祈っております。